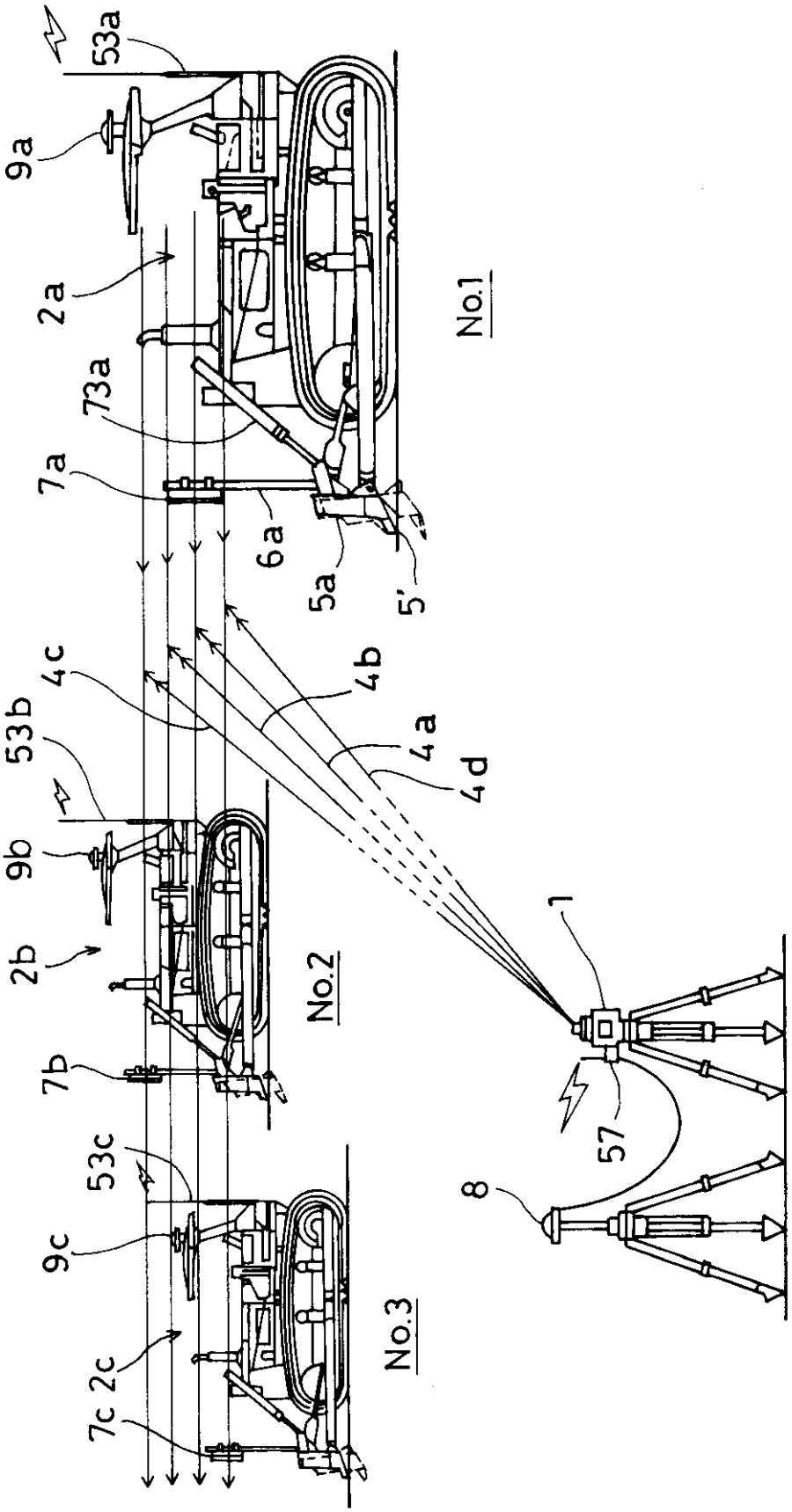
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成17年12月15日(2005.12.15)

【公開番号】特開2000-144812(P2000-144812A)
【公開日】平成12年5月26日(2000.5.26)
【出願番号】特願平10-323474
【国際特許分類第７版】
　Ｅ０２Ｆ　 9/20
　Ｇ０１Ｃ　 5/00
　Ｇ０１Ｓ　 5/14
　Ｇ０１Ｓ　17/06
【ＦＩ】
　Ｅ０２Ｆ　 9/20　　Ｎ
　Ｇ０１Ｃ　 5/00　　Ｌ
　Ｇ０１Ｓ　 5/14
　Ｇ０１Ｓ　17/06

【手続補正書】
【提出日】平成17年10月28日(2005.10.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
　基準面を利用して整地作業を行う場合は、前記レベルセンサ７で検出した受光位置が記憶部５２に記憶された施工データに基づく受光位置に一致する様に前記ブレード駆動部７１を制御する。整地すべき地形がレベルセンサ７の範囲を超えて変化している場合には基準面の変更を行い、例えば水平の基準面から円錐の基準面に替え、施工データとの差を算出して作業を続行する。レーザ光線の射出角度と、前記回転レーザ装置１とブルドーザ２の地形データ上での位置が検出され、それに基づいて、前記レベルセンサ７で検出した基準面の受光位置と施工データに基づく受光位置とが合致する様に前記ブレード駆動部７１を制御する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
　施工が進み再び水平の基準面が受光出来る様になった場合には、円錐の基準面から水平の基準面に替えて作業を続行する。受光した基準面を識別し、その地点に於けるブレードの高さを算出することから容易にその地点に地形データに基づき施工すべき高さと前記算出した高さとの比較が可能である。更に、地形の高低に拘らず作業が続行できる様に、レベルセンサ７が少なくとも１つの基準面を受光できる様に円錐の基準面の射出角度が決められ、複数の基準面が形成されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図９
【補正方法】変更

【補正の内容】
【図９】


53a
9a
2a
No.1
73a
7a
6a
5a
5'
4c
4b
4a
4d
53b
9b
2b
No.2
7b
1
57
8
53c
9c
No.3
7c
2c